

受け継がれる四門前のにぎわい

寛永16年(1639)に5代目川越藩主となった松平信綱は、城下の町割りを行い、十カ町四門前の区画を定めました。この町割りで「四門前」とされたのは、養寿院・行伝寺・妙養寺・蓮馨寺の門前です。その周辺は、今も残る歴史的建築物と共に、趣のある様子が見受けられます。

菓子屋横丁は、かつての養寿院門前の一角です。明治初期に駄菓子売り出し人気となり、菓子製造・卸売りのまちとして発展しました。行伝寺門前には、老舗料亭「山屋」があり、玄関の背後に見える庭の樹木が印象的です。仲町通りへと続く妙養寺門前は、門前入口の交差点に残る数軒の町家が往時の面影を伝えてくれます。

かつての蓮馨寺の境内は広大で、惣門は現在の大正浪漫通りと立門前通りが接する辺りにありました。昭和8年(1933)に中央通りが蓮馨寺境内を通り抜けて開通したことから、境内地であった敷地を含む立門前通りが門前町としてにぎわいました。現在、立門前通りは道路美装化中で、



春には桜で彩られる、蓮馨寺境内(昨年撮影)

地元商店街を中心に新たな門前の魅力創出のための取り組みが行われています。

門前は、地域の人たちの身近な通りとして、訪れる人もまちの魅力と奥行きを感じさせる貴重な歴史的風致の一つとなっています。



トマト

「栄養豊富で安全安心な野菜を食べてもらいたい」と話すの

は、今福にある@ FARMの松本弓彦さん。他業種を手掛ける傍ら、平成29年11月農業に新規参入し、トマト・イチゴ・シュンギクなどさまざまな農作物を育てています。その中でも「KOEDO トマト 美咲」と名付けられた自慢のトマトは、甘みと酸味が濃厚で、リコピンや亜鉛などの栄養が豊富という特徴があるそうです。

「特殊な酵素資材を使用することで、土の中の微生物の働きを促進し、減農薬と高栄養化を実現しています」と松本さん。また、温度、日射量、

水やりの量などを徹底しデータ化して、専門家と一緒に分析を行い、追肥のタイミングなどを決め、よりおいしいトマトになるよう工夫を重ねています。さらに6次産業化の取り組みとして、ジャムやパスタソース等の加工品の販売や、ピザやパフェを提供するレストラン経営等も手掛けています。新鮮なトマトだけでなく、その特徴を生かした加工品や料理を、一度味わってみてはいかがでしょうか。



実ったトマトと@FARMの皆さん

この時期に市内の直売所などで購入できる主な川越産野菜

コマツナ、ホウレンソウ、ブロッコリー、ニンジン、サトイモ、ネギ、ダイコン、カブ、ゴボウ、ハクサイ、キャベツ

編集後記

どんぶり

川越市が2020年版「訪れてみたい日本のアニメ聖地88」に「神様はじめました」と「月がきれい」の2作品で選ばれました。この企画は(株)日本アニメトリズム協会が国内外からの公募等により選出しているもので、川越市は企画が始まった2018年度版から毎年「聖地」に選ばれています。

聖地 と言えば、囲碁の第44期棋聖戦第2局が1月20日・21日に蓮馨寺の本堂で行われました。川越での棋聖戦は今回が3回目。前日の19日から関連イベントが行われ、プロ棋士との対局や指導碁など、囲碁好きにはたまらないものでした。第2局は井山棋聖が取りましたが、棋聖戦は全7局、この勝負まだまだ目が離せません。



金秀俊九段と大澤奈留美四段による大盤解説会

広報川越1456

「声の広報川越(CD)」 「点字広報川越」を作成しています。ご希望の方は、広報室までご相談ください。

☎224-5495 ☎225-2171

■発行日/令和2年2月10日(毎月10日・25日発行)

■発行/川越市 〒350-8601埼玉県川越市元町1丁目3-1 <http://www.city.kawagoe.saitama.jp/>
市役所代表 ☎049-224-8811 ☎049-225-2171

■編集/広報室

私的利用の範囲を除き、記事や写真の無断転載を禁止します。

この印刷物は、グリーン購入法に適合する紙を使用し、印刷用の紙へ、リサイクルできます。

リサイクル適性(A)

Fontworks
UDFont